

酒と、さようなら

三月弥生。別れの季節というのが、定年退職してみると季節の行事に疎くなる。

勸君金屈卮
満酌不須辞
花発多風雨
人生足別離

掲げたのは「勸酒(かんしゅ)」。中国・唐の時代に存在した詩人、于武陵の作品の一つだ。「別れ」がテーマで、人生及び人の世を「花に吹く嵐」に例えている。以下の、井伏鱒二の意識ですっかり有名になった。

この杯を受けてくれ
どうぞなみなみ注がしておくれ
花に嵐のたとえもあるぞ
「さよなら」だけが人生だ

酒と言えはこんな「さようなら」もある。

「明日もあるからではなく、今日という一日を満々と満たすべく、だらだらではなく、ていねいに、しっかり充分に、呑む」

「呑まなければ、もっと仕事ができるし、お金もたまる。たぶんそうなんだろう。なんてことのない、一日に、感謝して、ほほ笑んでいる。間に合わなかった仕事、ごめんなさい。おいしいお酒、ありがとう。今日も、ちゃんと酔えて、よかった。明日間に合うね、きっと」

「家族だけでなく、友人や知人で、いっしょに食べて、おいしいひとは、自分にとって、たいせつなひとだ。そんなひとがいる限り、ひとりで食べる食卓は、けっして淋しくないはずだ」

「腹を満たすのではない、時を満たすのである」

「ともあれ、『さようなら』は、いつも唐突」

「オレはお前(私)が真っ先に逝くとみたがな。いつも忙しそうだったし、不規則、暴飲暴食を自慢していたからさ」とはYは笑った。
(杉浦日向子「憩う言葉」)

長引くコロナ禍。酒も縁遠くなった。断った訳ではないが、格別に欲しがることも無くなった。私は「酔いたいから」「人恋しいから」飲んでいたのであろう。酒を心底、愛していたわけではなさそうだ。だから「さようなら」もあつけない。

「新聞に載らない内緒話」 <http://www.nikkansports.com/general/column/naisyo/news/>

※上記のHP(ホームページ)からの原稿の転載はご遠慮ください。

あなたの進学を応援します

朝日奨学会 首都圏制度募集

夜間・通信も大歓迎!

- Point 1 返済不要の奨学金を支給
教材費の支給は朝日だけ
- Point 2 毎月支給の給料で生活も安定
- Point 3 家賃0円
冷暖房完備の個室を無料で提供

朝日奨学会

〒104-0045 東京都中央区築地4-5-14
TEL: 0120-127-733 (平日10:00-18:00)
WEB: www.asahishogakukai.or.jp/



累計500万冊突破

天声人語

書き写しノート

ノートは通常版、学習用、脳トレ版、英文字版、英訳版の全5種類

書き写すだけで、知っている言葉が増え、文章力がつく!

■通常版/A4判 定価220円(税込) 1カ月分
■発行・編集 朝日新聞社

天声人語ノート

▶ASA(朝日新聞販売所)でお求めいただけます。